

2020
3 / 1
(日)

横須賀上映

第29回
有料上映会



狂言「しびり」(13分)の上演とお話
映画「よあけの焚き火」上映

72分 60分

よあけの焚き火

わたしも狂言、
やってみたいな。



第21回小津安二郎記念
蓼科高原映画祭
正式招待作品



第67回
サン・セバスティアン
国際映画祭
新人監督部門正式招待作品

大蔵基誠 大蔵康誠 鎌田らい樹 坂田明

監督・脚本・編集：土井康一

プロデューサー：村山憲太郎 撮影：丸池納 照明：三重野聖一郎 録音：北村峰晴 音楽：坂田学
製作・配給：桜映画社 配給協力：ポレポレ東中野

2018年 / 72分 / カラー / ビスタ / 日本



2020年 **3月1日(日)** 13:30 ~ (開場 13:00)

横須賀市 文化会館 大ホール 京急横須賀中央駅下車 徒歩 10分
横須賀市深田台 50 ☎046-823-2950

※なお、狂言の演目は変更することがあります。予めご了承ください。

チケット料金 1,500円 (前売り券 1,300円) 全席自由席

チケット販売：横須賀市文化会館 ☎046-823-2950
品川文化堂 (大滝町) ☎046-823-1848
井出新聞店 (衣笠栄町) ☎046-851-0235
アナザワフォト (追浜駅前) ☎046-865-9963

郵便振替：口座番号 00230-4-09440 口座名称 16ミリ試写室

主催：16ミリ試写室 <http://y16miri.com>

共催：横須賀市教育委員会
後援：横須賀市 (公財)横須賀市生涯学習財団
横須賀文化協会 (福)横須賀市社会福祉協議会

問合せ：☎090-2901-0862 (松澤)

父と息子。職業、狂言方。

雪解け近い、山の稽古場。

六五〇年の伝統をもつ狂言方の家に生まれた大藏基誠と、
十歳になる息子・康誠。

冬、父と息子は山の稽古場へ向かう。

二人は何を目的に、この山奥を訪れたのか。

ある日、親子の姿を静かに見つめる少女、咲子が現れる。

家族の歴史を背負った康誠と、家族を失った咲子。

「運命」を背負った二人の心が静かに交差し始める……。



ドキュメンタリーとフィクションを行き交いながら紡がれる家族の物語。

伝統芸能をモチーフに、「伝えること」という普遍的なテーマを昇華させた稀有な作品が誕生した。映画初主演にして自身を演じるという難役を果たした大藏基誠・康誠は、大藏流狂言方の実の親子。共演にミュージシャンの坂田明、『幼な子われらに生まれ』(17)で注目を集めた鎌田らい樹を迎え、それぞれが踏み出す一歩をみずみずしく演じている。監督は本作が劇場デビュー作となる土井康一。長野県蓼科の大自然を風格ある映像で捉えたベテラン・カメラマン丸池納ほか、本作を描くにふさわしいキャスト・スタッフが集まった。



康誠君のとても綺麗な目、優しい声に惹かれました。彼の懸命な姿を見つめる咲子にも笑顔が増えて行く。咲子は狂言を知っていたのか、それとも知らずに笑顔になれたのか。能楽師狂言方の力強さを感じた。よし。また、観に行こう。——俳優 柳楽優弥

焚き火とは映画のことである。映画の放つ光の揺らめきの前で、観客は静かに告白を始めるのである。わたしもこの映画との対話によって、自分の行く末が見えてきた。「よあけの焚き火」はそういう力を秘めた、静謐な空のような映画なのである。

——多摩美術大学名誉教授 前橋文学館館長 萩原 朔美



監督 土井 康一

1978年、神奈川県生まれ。自由学園、多摩美術大学卒業。写真と映画という2つの方法で独自の作品を手がける本橋成一に師事し、『バオバブの記憶』(08)などの助監督をつとめる。2009年より桜映画社にディレクターとして勤務。小栗康平監督『FOUJITA』(15/監督助手)、文化庁工芸技術記録映画『彫金』(17)、『蒔絵』(18)で教育映像祭優秀作品賞、国際短編映像祭映文連アワード部門優秀賞受賞。テレビ東京『ガイアの夜明け』『カンプリア宮殿』などのテレビ番組やCM、プロモーションなど、多くの作品を手がけている。

16ミリ試写室

『16ミリ試写室』は1977年に発足。「どこでも素敵な映画館」を合言葉に、県や市の視聴覚ライブラリー所有の16ミリフィルムや映写機を活用し、視聴覚教育活動が続ける女性のNPO団体です。横須賀市内の図書館やコミセンなどの社会教育施設、老人ホーム、障がい者施設、地域の集会室などで年間約100回の映画会を開催しています。さらに、「心に響くメッセージを廉価で届ける」を目的に、ドキュメンタリー映画を中心に有料上映会も開催しています。2013年春 地域交流支援活動奉仕団体として緑綬褒章を受章。